

2010.MAR

釣り人が創る逸品釣具 ぎあ・らぼ

お気楽Gear-labニューズレター第16号です。

Gear-Lab製品をご利用ありがとうございます。

関東を中心に「ひとつテンヤ」が大ブームになっています。ジグ売り切れが続出しているようです。今までメジャーな釣りではなかったのでいきなりブームとなり兵庫県の針メーカーの生産量が全く追いつかないらしいです。

さてこの「ひとつテンヤ」は0.6号や0.8号という細いPEラインで釣り、リーダーはフロロカーボン2~3号ですのでEZノッターSとSSサイズの出番です。しっかり結んで安心して釣りをしたいものです。ひとつテンヤが一番難しいのがラインの結束です。この釣りは船のキス竿クラスなんです。大真鯛がかかったら本当に楽しいでしょうね。

しかしずっと昔からあった釣りです。今ごろになって見直されたのが興味深いのですが、大きな理由は細いPEラインの出現です。昔はビシマか中オモリ、もしくは錆込みテンピンを使っていたのですが、細いラインと柔らかい竿のLT(ライトタックル)が流行ってひとつテンヤが様変わりしたようです。ですので昔のひとつテンヤとは全く違うようです。その違いはオモリの軽さによるアタリとそのアワセだといえます。

さてGear-Labもこの釣りについて新たな開発を進めています。どうぞお楽しみになさってください。



旅暮らし四方山話。(その5)

旅暮らしのなかでの“食”と“歴史探訪”は少し話をしましたが、やっぱりなんと言っても釣り人やモノづくりをする方々との話です。

つつい居酒屋で飲みながらの話が多いのですが、私はそんな皆さんからの話を聞くのが一番の趣味かもしれません。日本国中を走り回って居酒屋でいろんな話を聞く。いえいえ世界中の居酒屋…(´0´) \(-;-) バキッ!

しかし、やっぱりなんと言っても情報を持ってくるのは“人”ですね。インターネットはきっかけとしては重要ですが“人”の情報にはかないません。

もう面白くて面白くてお酒もつつい美味しくなるしこの趣味は一生やめられそ

うにありません。

さて今回の大正生まれの大先輩はボート釣りを極められた人です。その方の話しは釣りだけでなく多岐にわたり人生の深さを感じさせられます。なんと今から65年前の話です。

この写真は先日行った靖国神社遊就



館に展示してある「零戦」です。日本人が最高の技術をもって世界と対峙した戦闘機ですが、このフォルムの美しさは今になってもやっぱり素晴らしいです。ものごころついたときから私は零戦大好き少年でして零式艦上戦闘機52型を見ていると時の経つのも

忘れてしまうくらいでした。

この大先輩(以後N氏とします)は当時東京大井町の飛行場で零戦の修理をエンジニアのお仕事をされていました。東京大空襲があったあとはこの大井町の飛行場からたくさんの特攻隊が片道だけの燃料で飛び立っていったそうです。飛び立つ前には地元で精一杯のご馳走

を食し、お酒を呑みそして零戦に乗り込むときには紙袋にガムやチョコレートやビスケットという御菓子を冥途の土産として差し入れたそうです。ただ終戦近い時期に絶対に禁制だったアメリカ製のガムやチョコレートを入手できたのか不思議でならなかったようです。それを差し入れたおばちゃんに聞くと「世の中知らなくて

よいことはたくさんあるんよ。」という立派な返事に圧巻されたそうです。

そうしながらたくさんの特攻隊が空に消えていくのですが、不思議なことにたまに帰ってくる零戦があったらしいです。逃げてきたのではなく散々闘ってもうボロボロになった機体です。(右上につづく)

Gear-labは普通の釣具店にはない新しく夢のある逸品釣具を紹介し続けます。全国の熱い人たちと共に本当に良いものを世の中に出すことに真剣であり常識にとられない商品開発や逸品釣具を求める方とのみチームを組んでいきます。



銃機関砲でポコポコにやられて機体は穴だらけで、ラダーは動かないしプロペラも回らない状態の零戦です。確かに闘ってきている零戦です。片道だけの燃料なので燃料も全て使いきっている。

修理せいで言われてもどうしようもないくらいに破壊されている零戦に唖然としたといいます。

降りてきた零戦に対しては通常「非国民！」と言われそうです。憲兵が駆け寄ります。当然ポコポコに殴られてしまうだろうなと思っていたら、その憲兵はなんと、飛行機から降りてきた将校にしっかり敬礼して「我が陛下の機体を持ち帰ってくれて、ありがとう！」と大声で叫ぶように最敬礼したらしいです。大井町の人たちも帰ってきた将校を手厚く扱ってお祝いをするという心温まる話です。戦争で疲れ切った日本人もそんな心はしっかりもってたんですね。特に東京は106回も爆撃されて日本で一番叩かれた都市であり民間人が一番被害を被ったところです。

私は聞きました。「しかしNさん。そのプロペラも回らない零戦というのはまるでグライダーと同じだと思うのですが、どうして帰ることができたんでしょうね？ありえない話のようですが。」と言うとN氏は「今でも不思議でならない。物理学的にはありえない話だよ。グライダー以下のものがどうして帰ってきたのか。」と。

しかし、しっかり答えてくれました。

「執念や。人間の執念しかない。執念以外でこの飛行機が飛べるはずはない。」と。

モエピックスヘビーウエイト3月リリース

大人気のモエピックスですが、この形で13gというヘビーウエイトのモエピックスを3月にリリースします。

従来のモエピックスは2gでしたので6倍以上という大きさですが、長さは53mmです。

ボート釣りや岸壁ジギングなどで多魚種を相手に楽しめそうなジグです。

早速実釣して来ましたがよく飛びます。根掛かりさえ注意していただければクロダイ、ヒラメ、マゴチなどいろいろな魚を狙えそうです。PEライン1号あたりのライトなタックルで釣りを楽しんでください

ベイトフック3月リリース

Gear-Lab釣行記によく爆釣している「あみと」さんが自作していたジギングフックをGear-Labがあみとさん監修でリリースします。これがとても釣れるのです！

ヒラマサやブリなどの青物はとてもよく釣れます。青物は吸い込んでの捕食です。とても目立つスカートは視認性抜群で真鯛や根魚にも効果的です。特に根魚はアジがベイトのときは抜群な釣果になります。これからジギングをされる方にはこのベイトフックを一度お試しください。

大きな城下町 東京

かつて徳川幕府の居城であった江戸城は今はご存じの皇居になっています。明治維新時には江戸城の大きさは西側は池袋あたりまでありちょうど今の山手線を囲むくらいの広さだったようです。そうすると城としては世界一の広さかもしれません。

内堀通りを抜けて、有名な桜田門や田安門、伏見櫓、立派な石垣などの立派な遺構がたくさん残っています。

すぐ近くには丸の内のビル群が見え、それらが全て武家屋敷だったことを考えるとたった140年前のことなのに不思議な気持ちになります。坂本竜馬が通った千葉道場もここあたりにありました。

一般公開されている皇居東御苑ですが、大手門から百人番所を通り石垣に囲まれた坂を上がりきると広い芝生が広がります。ここはかつて本丸と大奥があった場所です。今は建物は残っていませんが、かつて勝海舟が大奥の篤姫を世の中を知らしめるためにお堀の外に連れ出してを案内したときに必ずここを通っただろうと想像しながら歩くと楽しいものです。

私が30年前くらいに初めて東京に来たときに感じたことは「東京って緑が多いんだなあ〜。」ということでしたがそれから何度も東京を散策して分かったことは、緑が多いのは水戸、紀州、尾張、土佐、長州、薩摩などの武家屋敷が多いからでした。驚くばかりの広さの公園があり、とてつもなく広い明治神宮、ここはセントラルパークか？と思いたくなるくらいの新宿御苑は今後もなくなってほしくない庭園です。

株式会社ギアラボ

〒813-0016 福岡市東区香椎浜2丁目5-2-701

Tel 092 - 663 - 5196

Fax 092 - 663 - 5102

Mail NQE50210@nifty.com

このお気楽ニュースレターのバックナンバーは下記にございます。

<http://www.gear-lab.com/newsletter/main.htm>

Gear-labホームページ

<http://www.gear-lab.com>

毎月の新製品に追われ、全国を旅しながら、モノづくりと販売のお手伝いをしています。

お気軽にメールください。面白い釣具があれば全国どこへでも参上します！一杯呑みましょう。(〜)

福山克義(ふくやまかつよし)

メール NQE50210@nifty.com

携帯 090-8406-9591



お気楽DETCHEこと福山でした